

会議概要書

会議の名称	令和7年度第2回伯耆町総合計画審議会
開催日時	令和7年9月4日（木）午後2時から午後4時15分
開催場所	本庁舎2階 応接室
出席者 (敬称略)	会長 谷口 仁志 副会長 長谷川 正 委員 湯村 洋子、加川 賢明、沢田 圭太郎 幸形 信之、上保 裕典 伯耆町長 小澤 敦彦 オブザーバー 伯耆町教育委員会 箕浦教育長 西部総合事務所県民福祉局 福光副局長（伯耆町担当コンシェルジュ） 事務局 一橋企画課長、生田
欠席者 (敬称略)	委員 小早川 梓、坂東 あゆみ、橋本 将美

会議の主な内容

【議事内容】

- ・会長及び副会長の互選
- ・報告事項
 - (1) 第3次伯耆町総合計画取組状況について
 - (2) まちづくりアンケート等の結果について
- ・その他
 - (1) 自治会5カ年計画とりまとめ状況
 - (2) 次回開催予定

【会議概要】(要約)

<挨拶>（小澤 町長）

今日はお忙しいところご参考いただきましてありがとうございます。
第1回審議会は任期が6月末である前委員にお集まりいただき6月に開催しました。そのため、今回は第2回であります新しい委員の皆さんをお迎えして開催することになりました。新しく小早川委員、坂東委員、幸形委員に加わっていただき、前回の委員であった西部総合事務所県民福祉局の福光副局長、伯耆町教育委員会の箕浦教育長にはオブザーバーという形でご参加いただくこととし、より充実したメンバーで審議を進めていくことになりましたので、よろしくお願ひいたします。

町では第4次総合計画の策定に向けて実施している「まち∞未来ミーティング」が昨日をもって町内6地区（全地区）での開催が終了し、たくさんの意見をいただいております。今日のアンケート集計結果や第3次総合計画のまとめを踏まえながら、皆さんの声を加えて第4次の計画を策定していきたいと思いますので、皆さんの貴重なご意見をたくさん賜りますようお願い申し上げます。

<辞令交付)>

<会長及び副会長の互選>

- ・選出方法：事務局案にて意義なし
- ・会長：伯耆町社会福祉協議会 会長 谷口 仁志 氏
副会長：伯耆町区長協議会 会長 長谷川 正 氏

<総合計画及び総合計画審議会について（説明）>生田

伯耆町総合計画とは、伯耆町を将来どのようなまちにしたいか、そのためにどのような取り組みをするのかを具体的に示した計画であり、行政運営の中核となる計画である。そして、今年度は令和8年度から令和12年度を計画期間とした新たな総合計画となる第4次総合計画を策定する年度である。

総合計画を策定するにあたり、総合計画審議会において委員の皆さんに計画案等について調査審議をしていただき、ご意見をいただきたい。

その他、今回は外部アドバイザーから助言をいただき計画案を策定していく。アドバイザーには人口ビジョンを専門としている方にお願いしており、将来人口を踏まえた施策検討について助言をいただくこととしている。

<報告事項①第3次伯耆町総合計画取組状況について>（説明：生田）

○取組状況調査結果の概要【調査票1】

令和6年度の取組状況 379項目中

完了：10項目、実施：367項目、検討1項目、未実施：0項目、中止1項目

※令和6年度中に変化があった項目について説明（資料のとおり）

○取組事業（総事業費5,000千円以上）の調査結果の概要【調査票2】

令和6年度の取組状況 126項目中

完了：31項目、実施：86項目、検討2項目、未実施：5項目、中止2項目

※令和6年度中に変化があった項目について説明（資料のとおり）

○地方創生の取り組み状況

基本目標I 次世代へつながる子育てのまち（子育て支援の充実） 9項目中

達成：1件、未達成：8件

基本目標II 暮らしにつながる仕事のあるまち（産業の振興・雇用創出） 13項目中

達成：6件、未達成：7件

基本目標III ひとと地域がつながる安住のまち（魅力あるまちづくりの推進） 11項目中

達成：3件、未達成：8件

○人口動態について

資料のとおり

[質疑等]

(谷口 会長)

KPIの合計特殊出生率1.74という数字の意味合いを分析しているものがあれば、どういう見解を持っているのか教えていただきたい。

(事務局)

明確な分析をしていないが、数値自体はそこまで悪くないなと思う。しかし、目標設定時より、伸びてきてないと思っている。

(谷口 会長)

合計特殊出生率は全市町村のデータがあると思うが伯耆町の1.74という数値はどの程度の位置にあるのか。

(事務局)

全国平均以上と認識している。

(※令和5年人口動態統計 全国平均：1.2、鳥取県：1.44(9/47都道府県))

(幸形 委員)

第3次総合計画のキャッチフレーズで「森と光が織りなすうるおいのまち」とあるが、「森」と「光」が何を表してるので分からぬ。

(小澤 町長)

「森」は豊な自然とか川とか大山、日野川とか田園風景などをイメージし、「光」は人々の輝きやまちの賑わい、活性化や活躍する人とかをイメージしている。「織りなす」は、来た人にとっても楽しいまち、今住んでいる人にとっても潤いというか豊かなまちであるということを「織りなす」という言葉で表現している。

(幸形 委員)

キャッチフレーズが意味しているものが分かりにくいので、新しい総合計画の策定にあたっては、もう少し具体的な表現にしたら良いかと思う。

(事務局)

「森と光が織りなすうるおいのまち」は第1次総合計画（当初計画）の時からできたもの。キャッチフレーズの続きに具体的な内容を示すサブタイトルがあり、そこでもう少し具体的な表現にしている。

(谷口 会長)

総合計画策定にあたり、審議会の位置づけについて説明いただきたい。総合計画は議決事項と認識しているが、総合計画審議会で議論されたものがどのようなになるのか、役割も含めて委員の皆様も把握されておいた方が、審議会での意見も活発になると思う。

(事務局)

総合計画の策定は議会の議決を経て策定されるもの。その前に原案について審議会の皆さんに諮詢して、ご検討いただくというスタイルにしている。問題ない計画案であれば、その旨を答申という形で町に提出していただき、それをもって議会に原案を提出する。

今後の予定としては、11月頃に開催予定の第3回審議会にて原案説明。その後、12月議会で議会へ原案説明。第3階審議会及び12月議会での指摘事項をフィードバックして、2月頃開催予定の第4回審議会にてご確認いただき、答申していただく。最終的に3月議会に議案提出し、議決を経て策定となる。

(上保 委員)

地方創生の取り組みのKPIについて、達成状況と人口動態等を比較し、うまくいった取り組みや改善点の分析はこれから行われるのか。

(事務局)

結果を全課に共有し、取り組み状況について分析の上、次期計画案の施策に盛り込んでいく予定。

(長谷川 副会長)

合計特殊出生率について、結婚された方の出生率が市町村によっては2.0を超えてることもある。しかし未婚の方の率が高いところは出生率がぐっと下がっていく現状があるが、参考値として審議会資料に入れないと。

(事務局)

そういう資料は難しい。

参考だが、国勢調査結果が出た際に消滅可能性都市が提示された際のデータがあり、20歳から39歳の若年層女性人口の指針の1つとなった。そういうデータなら参考として提出できると思う。

また、次期計画では外部アドバイザーに人口ビジョンを依頼している。人口ビジョンについて、要素等含めて次回審議会で説明させていただく。

(谷口 会長)

データ収集も大事だが何を求めてるか、どうすれば出生に繋がるのかということを直接聞くことも大切だと思う。

(上保 委員)

少子化対策で未婚の方の意識に関して、自社が鳥取県としている少子化対策事業において県全域で少子化対策アンケート調査を実施しており、その結果を公表しているので参考にされてはと思う。また、その情報も提供させていただく。

(谷口 会長)

6ページの取組状況にある道路ストック点検事業について、事業概要に道路路面性状調査、トンネル点検大倉隧道、法面点検4ヶ所、道路付属物点検とあり、令和6年度は実施となっているが、どういう結果だったのか。

(事務局)

所管である地域整備課に確認する。

※令和6年度は道路路面性状調査を実施。道路の路面状況を把握し、長寿命化のため修繕計画に反映させた。修繕計画等の詳細は地域整備課にて確認可能。

<報告事項②まちづくりアンケート等の結果について>（説明：生田）

今回、第4次総合計画の策定にあたり、まちづくりアンケート、中学生アンケートの実施及び各懇談会の3つの方法にて、住民意見の抽出を行った。

各結果を全課で共有し、各意見を取捨選択の上、住民をニーズ分析。それをもとに町が取り組むべき施策を検討し、第4次総合計画を策定する。

<まちづくりアンケート（配布資料参考）>

- ・16歳以上の町民から無作為抽出した1,500名にアンケートを送付。
- ・回答数は505件（郵送回答339件、WEB回答166件）
※統計学的にこの結果は信頼性95%、誤差±5%ある調査結果となっている。
- ・回答率33.7%（昨年度より減少）
- ・問5の伯耆町の愛着については、昨年度より4.2%上昇。
地区別でみると全体72.1%より低いのが日光、溝口、二部地区。特に日光地区が低い。
- ・問7の住み続けたいかについては、昨年度より3.9%減少。
地区別でみると全体66.7%より低いのが日光、溝口、八郷。
- 年代別でみると全体66.7%より低いのが16～19歳、20代、30代。特に16～19歳、20代が低い。
- ・問14集落（自治会）をはじめとするコミュニティ活動への参加、協力について
必要最低限の参加・協力にとどめたい、参加・協力したくないと回答した割合が50.1%。
年代別でみると、20代、30代、40代において必要最低と回答した割合が多い。特に20代、30代は65%以上あった。
地区別でみると、日光・二部は参加意向の割合が高く、溝口・八郷は半々程度、大幡・幡郷は不参加意向の割合が高かった。

<中学生アンケート（配布資料参考）>

- ・岸本中学校、溝口中学校の全生徒265人を対象に実施。
- ・回答数は228件。
- ・問4、5、6について、どちらかといえば町へ愛着がある以上、どちらかといえば暮らしやすい以上、また戻ってきたい以上と思った生徒の割合が70%以上。

<各懇談会（配布資料参考）>

- ・まち∞未来ミーティング、次世代ミーティング、まち∞未来Caféの3種類のミーティングを開催している。
- ・今回は既に開催した懇談会の会議録を資料として配布。
(まち∞未来ミーティングのうち5地区/6地区、次世代ミーティング1回分)
- ・懇願会結果は町ホームページにて掲載。

[質疑等]

(沢田 委員)

中学生のアンケートの問9のお店を増やしてほしいと回答された中で、どんなお店かという質問で本屋が1番であった事が、非常に印象的だった。

また、まちづくりアンケートの町内のお気に入りの場所で、図書館が3番目に入っている。本屋と図書館は補完関係があるというふうも捉えられるので印象的であった。

あと、取組状況報告資料の調査票の2-5ページに学校司書の設置事業という項目が実施であり、各小・中学校に学校司書を配置ということで小学校4人、中学校2人を令和4年から7年にかけて新たに配置されている。これは非常に素晴らしい取り組みだと思った。

今ある施設をどう生かしていくかというソフト事業が大事だと思う。その中でも、図書館の役割はとても大きい。鳥取県は全市町村に図書館がある数少ない県で、且つ鳥取県立図書館建設の大名目が市町村立図書館の支援であった。そのため、市町村図書館は、県立図書館の蔵書が全て借りること可能。あと図書館は本読むだけの場所ではないと思っており、何気なく時間を過ごす等、多用途な交流の拠点でもあると思う。

各懇談会記録の中でも図書館利用という項目があり、高齢者が健康寿命を維持するのに、高齢者が人との交流を増やす目的の一つとして図書館の利用促進をしてほしいとある。高齢者の孤独をもしかしたら癒すような側面もあると思う。

本屋があると良いという中学生の意見については、学校教育側面で図書館がバックアップ

できるかもしれない。あと生涯教育の視点で、図書館に対する評価とニーズは依然としてあると感じている。図書館の拠点性とか居場所としての必要性に焦点をあててはと思う。

あと植田正治美術館に人を呼び寄せるような魅力づくりを検討してはどうか。

(箕浦 教育長)

伯耆町の学校図書館の蔵書の購入費用割合は西部地区内でも相当高い。そういう意味では町民の方に喜んでいただけていると感じている。また、小中学生の読書活動に力を入れている。課題の1つとして、図書館が溝口、岸本と2つあるが休館日が同じ月曜日のため検討が必要と考えている。

(谷口 会長)

社協が管理しているみぞくちテラソに中高校生がよく来て、勉強等をしている。それを見たときに、居場所が無いんだなと思う。公園が無いというのも一つあるのかなと思う。あと高齢者の居場所づくりは介護予防にも大切なことであるため、何かやらなければならないとは考えている。

(長谷川 副会長)

アンケート回答について。WEB回答する方から言わされたことで、町内外のお気に入りの箇所の回答において、お気に入りの場所が無いが「無い」という選択肢が無く、且つ回答しないと次に進まず困ったというものだった。その方は紙で提出されたが、そこは改善した方が良い。

(幸形 委員)

買い物について、フレスピやその周辺が良いなと思っている。大型ショッピングセンターまではいらないが、本屋等の買い物できる店舗を一極集中させて、伯耆町はあそこに行けば大体なんもあるという場所にしたら良いと思う。町外の人が次どこに住みたいって言ったら、大山の麓で自然が良く買い物にも不便が無いというように思われる「まちづくり」をされてはどうかと思う。

また現在住んでいる八郷地区にはポプラの1店舗しかなく、なくなったら非常に困る。地域には核になるような店舗があると思うが、それに無くなると非常に困るので、何か残していくような取り組みでもあればと思う。

あと高齢の方で、自分で買い物にいけない方は親族に乗せてもらって週1回程度の買い物となっている。ただ、急に何かが必要となったときに買い物に行けない。昔は移動販売があり週1回程度来ていたと思う。今後、店舗が無い地域の運転できない方の買い物対策としてバスで回る等の買い物対策の取り組みを考えられたらと思う。

(湯村 委員)

中学生アンケートでどんなお店が欲しいかというところで図書館、本屋が出ていたことに少し、中学生が本を読む機会がだんだん少なくなってきている中、本を読むという気持ちになってるのがすごいと感じた。

(加川 委員)

荒廃農地が結構ある。高齢化等でなかなか対応が出来ない方が増えている状況。農地は1年ぐらい放置すると草がかなり生え、2~3年ぐらい経つと機械が入れない状態になっている場所もある。それに対処するにはお金がかかる。あと住民が県外に出て、放置されてなかなか手がつけられないという問題もあり、荒廃農地については困っている。

(福光 副局長)

まちづくりアンケートの住み続けたいという質問の回答で、地域によって意向が違うなどいうふう感じたが、住み続けたくない人が多い地域はもしかしたら満足度を上げれる何かがあれば変わってくるのではと思った。

満足度と重要度の調査で農業の関係の差が大きいので、力を入れていく必要があると感じた。

あと、鳥取県は働く場所が無いとよく言われる。中学生アンケートの将来の仕事についての質問の回答を見て、なかなか伯耆町だけでなく鳥取県全体でも難しい仕事があり、なるほど感じた。ただ働く場所の実態としては、伯耆町でも鳥取県でも農業の担い手がいないとか、介護の方の人材が減ってるとかということを考えてみると、伯耆町の中でも働く場所はあるのかなと思った。しかし、中学生から見るとそこで働くっていうイメージがつかめてないのではないか。そこでも働くんだというきっかけを少しでももってもらうようにできた

らと感じた。

(谷口 会長)

働く場所について、ハローワークの有効求人倍率は常に1.3~1.4くらいになっているが、ほとんど介護事業者。働き場が無いというわけではなくマッチングが全然できていないということだと思う。

(事務局)

中学生の職場体験で県の指導により、県西部の地元民間企業を並べて、職場体験を実施するという事業があったと認識している。住んでいる地域にこういった仕事があるというのを知ってもらうためには必要な取り組みだと感じた。

(箕浦 教育長)

職場体験は生徒の規模もあるし、コーディネーターの方に職場との調整を行っている。

また、ふるさとキャリア教育で小学校区の狭い範囲の地域の学習から段階を追って、伯耆町全域、それ以上まで拡げていき、中学卒業時になりたい自分を目指し進路選択をしてもらう取り組みを行っている。

(幸形 委員)

職場体験の受け入れ側からとして、将来の人材教育のために必要なことと思ってはいるが、実際に職場体験で教えるスタッフ側からは、その期間丸々携わる必要があり、通常業務が全くできること、直接利益には繋がらないことについて意見をもらったりすることがある。何か現場も説得できるものがあればと思う。

(箕浦 教育長)

中学生アンケートでいろいろ希望が出てきているが、それをなんでもやってしまうと子供の健全な発達にマイナス面があるため、そこを加味して解釈しなければならないと考える。

また、遊び場については、おそらくゲームセンターや大型ショッピングセンターをイメージしていると思うが、以前からゲームセンター等で犯罪被害に遭う事案が多くなったため、各学校では、犯罪被害未然防止の観点から、ゲームセンターやカラオケ店には、保護者同伴ならよいが、子ども達だけで行かないよう指導している。希望する子ども達がいることは理解するがその辺の配慮も必要に思う。

(谷口 会長)

中学生さんケートの位置付けは。

(事務局)

様々な意見があるが各分野の担当課がそれを受け、ニーズを分析する。もちろん取捨選択し、社会環境も考慮し必要なことをやるために材料とする。

(谷口 会長)

中学生の意見はまだやりたい、欲しいといった思いが強い。その上で、中学生アンケートを実施したという理由は必要と思う。

(長谷川 副会長)

中学生のいう本屋のイメージは図書館とは異なると思う。おそらく、友達と暇が潰せて、騒げて、自由にできるというものではないかと思う。そうすると、公園というのもイメージが違うのかなと思う。

(谷口 会長)

今までの意見を含め、アンケートの内容をどのように次期計画に反映させたかということが説明できるようにすれば良いと思う。

(上保 委員)

鳥取県と一緒に若者意識調査というのを全県で調査しており、高校生、大学生や県外に出てしまつた大学生にアンケートしている。これを基に愛着度等とどうしたらUターンしてくれるかということについての相関関係を調べた。そのときに愛着が強いとやっぱUターン意向が強い。暮らしやすさという観点でいくと暮らしやすさが低いとUターン意向は強くても戻ってこないっていうのがわかつってきた。また愛着の強さは高校生から大学生になると少し低くなる。

中学生アンケートでは、中学生が強い愛着を持たれて住み続けたいと思っている人が多いということは非常にポテンシャルがあり、これから高校、大学に進学していくときに、彼らにとって、いかに伯耆町が魅力のある地域、まちになっているかがポイントの1つかなど

思う。

働くという選択肢について、働く場所が多い少ないというよりも、今は価値観が違うため、多様なことを求められているということではないか。就職だけではなく起業という観点も含めて考えていく必要があると思う。また、1つの町だけでは難しいこともあるので広域でどう連携していくかっていう観点が1つあるのかなと思う。

あと、本屋の件について、本屋はニーズではなくウォンツ、今欲しいという方かもしれない。中学生アンケートでは本屋といっているかもしてないが、求められている解決策は本屋じゃないかもしないということ。本が揃っている居場所ということであれば図書館で補完できるかもしれない。そこら辺をきちんと捉えられるかということが大切だと思う。

<その他自治会5ヵ年計画とりまとめ状況>（説明：生田）

- ・総合計画に合わせて自治会5ヵ年計画として、自治会が予定されている町補助事業を使った事業のとりまとめを行っている。本資料は出てきたものを取りまとめたもの。今後、ヒアリングを行い計画としてまとめる予定。

<その他次回開催予定>（説明：生田）

11月頃に第3回審議会を予定。内容は総合計画の原案説明。